

演題番号: P2-3

筆頭名: 渡邊直人

筆頭所属名: 東京アレルギー疾患研究所 部門はありません

共著者名:

○渡邊直人 1)2)、曾 振武 2)、五十子将史 2)、牧野荘平 1)

共著者所属:

1)東京アレルギー疾患研究所、2)免疫療法研究所東京

演題名: アトピー性皮膚炎患者の病態解析の検討

背景) アトピー性皮膚炎 (AD) の病態の多くは Th2 優位と考えられているが、重症・難治化例では Th1 優位の報告もある。目的) 今回我々は、中等症以下の AD 患者において体内のリンパ球細胞群比率を検討した。対象) 内服投与されていない中等症以下の AD 患者 3 例。方法) 血液検査にて、血算、末梢血像、CD3,CD4,CD8,CD16,CD56 を測定し、免疫療法研究所免疫細胞群簡易分析式に当てはめて解析した。結果) 1 例目は 26 歳男性 (軽症)。WBC 9360 (Eo 2.0%)、IgE 387U/ml。リンパ球細胞群比率では、B 細胞 35% CD4 31% CD8 26% NK 細胞 7% NKT 細胞 1% で、Th1:Th2=33:36 であった。2 例目は 34 歳男性 (中等症)。WBC 6410 (Eo 4.1%)、IgE 18882U/ml。リンパ球細胞群比率では、B 細胞 40% CD4 23% CD8 32% NK 細胞 2% NKT 細胞 3%、Th1:Th2=34:43 であった。3 例目は 35 歳男性 (中等症)。WBC 5860 (Eo 5.3%)、IgE 960U/ml。リンパ球細胞群比率では、B 細胞 40% CD4 27% CD8 27% NK 細胞 5% NKT 細胞 1% で、Th1:Th2=32:41 であった。考察) 3 例とも末梢血好酸球の増加は認められないが、IgE は高値であり、B 細胞 > CD4 で免疫異常状態と考えられる。Th1-Th2 バランスでは Th2 の方が高いことから中等症までの AD は Th2 優位な病態であることが多いと考えられる。